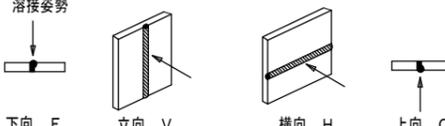
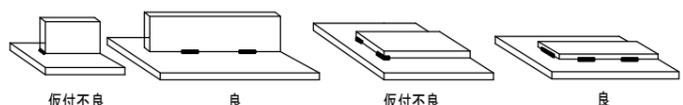
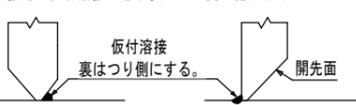


鉄骨構造標準図 (1)

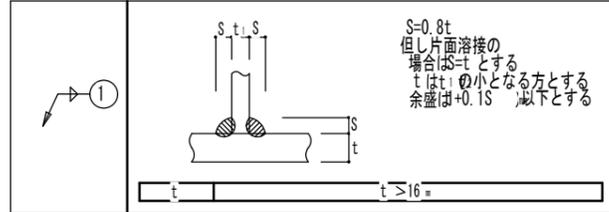
1. 一般事項

- (1) 材料及び検査
 (a) 構造設計仕様による
 (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが4mm以下のものとする
 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する
- (2) 工作一般
 (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し、工事監理者の承認を得る
 (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
 (c) 高強度鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする
- (3) 高力ボルト接合
 (a) 本締めを使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (4) 溶接接合
 (a) 溶接工
 溶接工は施工する溶接に適合するJIS Z 3801 (手溶接) 又はJIS Z 3841 (半自動溶接) の溶接技術検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする
 (b) 溶接機器
 (イ) 交流アーク溶接機00A 500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
 (ロ) アークエアーガウジング機 (直流) 600A (ホ) 溶接電流を測定する電流計
 (ハ) 溶接棒乾燥器 (ヘ) サブマージドアーク溶接機1式
 (c) 溶接方法
 アーク手溶接 (MC) ガスシールドアーク溶接 (GC)
 ノンガスシールドアーク溶接 (NGC) アークエアーガウジング (AAG)
 (d) 溶接姿勢

 (e) 仮付溶接工は、原則として本工事に従事する者が行う
 (イ) 仮付位置
 仮付溶接は、溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり 易い箇所は避ける

 (ロ) 突合せ溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する

 (f) 溶接施工
 (イ) エンドタブ
 I) 突合せ溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
 II) エンドタブの材質は、母材と同質以上とする
 III) エンドタブの長さは、MC: 35mm以上
 NGC、GC: 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後 エンドタブが35mm以上母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
 IV) プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る
 (ロ) 裏あて金
 材質は母材と同質材料以上とする
 (ハ) スカーラップ 半径は30・35mmとする
 (ニ) 裏はつり
 標準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に確認マークをつける
 (ホ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先面をいためない様に、養生を行なう
- (5) 塗装
 コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

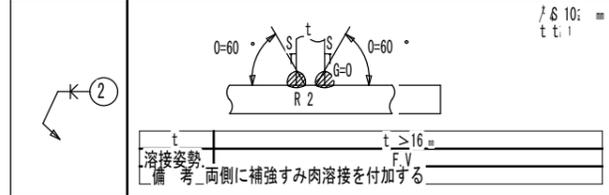
2. 溶接標準図

(注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 脚長 単位mm

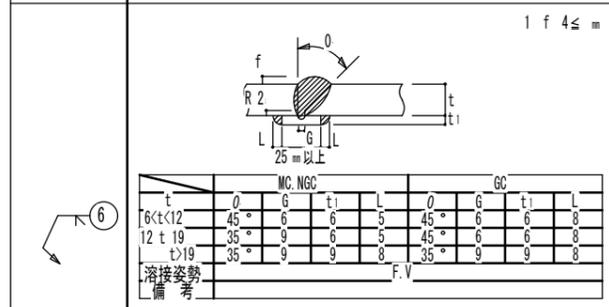
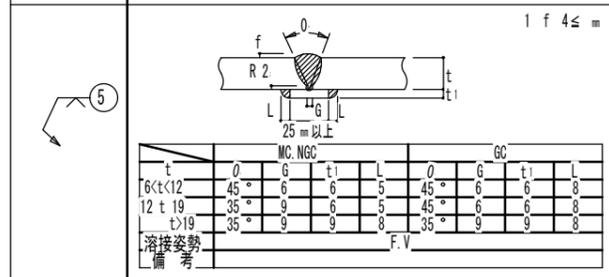
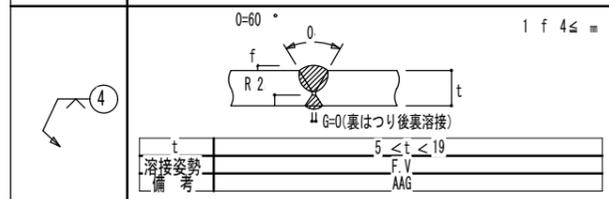
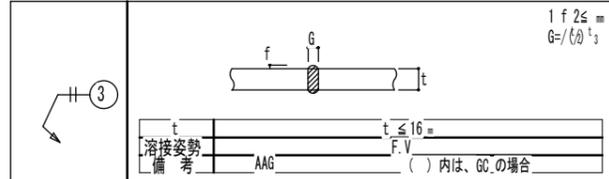
(1) スミ肉溶接



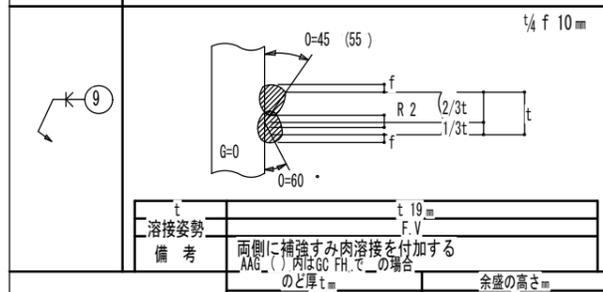
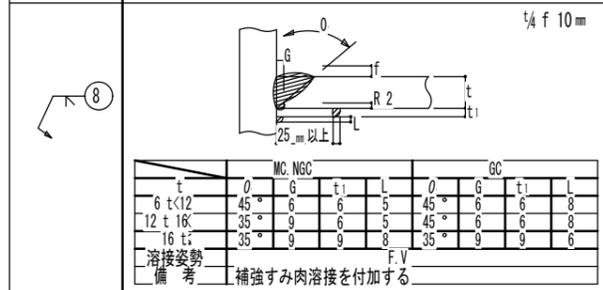
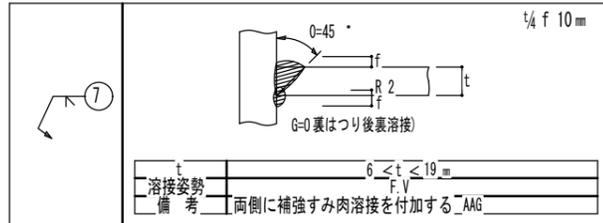
(2) 部分溶け込み溶接 (使用箇所に注意)



(3) 突合せ溶接 () 平継手

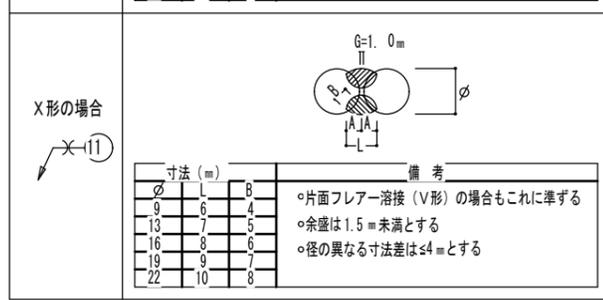
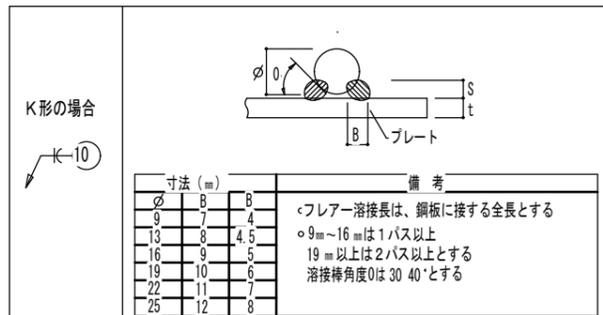


() T形継手

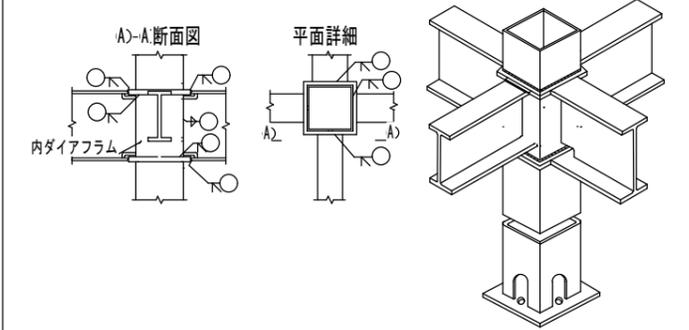


T形突合せ継手余盛	余盛の高さm	
	t	1
t < 4	1	
4 < t < 12	2	
12 < t < 19	3	
t > 19	4	

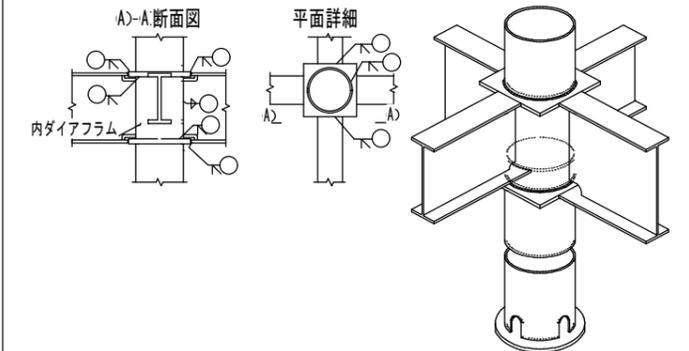
(4) フレア溶接



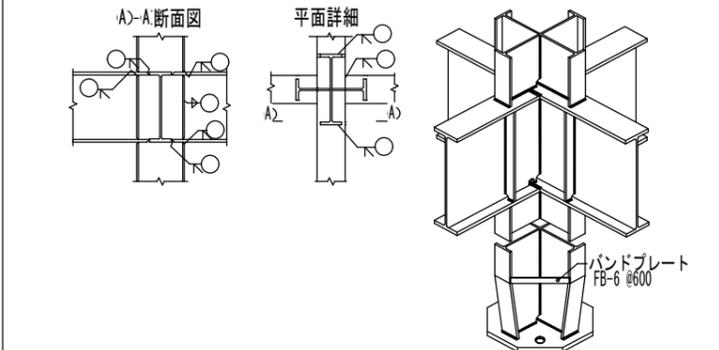
溶接記号番号を○中に記入のこと
 ・角形鋼管 通しダイヤフラムの場合)



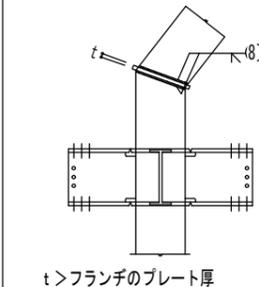
・丸形鋼管 通しダイヤフラムの場合)



・H形鋼 梁通しの場合)



柱が途中で折れる場合



鉄骨構造標準図(2)

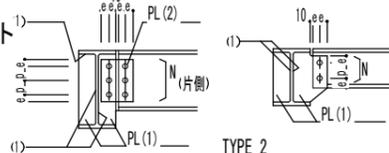
3. 継手規準図、その他

(1) ボルトピッチ (P) ボルト穴径・最小縁端距離 (mm)

呼び	ボルト穴径	最小縁端距離 (e)				ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(3)	2 3の標準	最小	標準
M16	17.0	40	28	22	30	40	60
M20	21.5	50	34	26	35	50	70
M22	23.5	55	38	28	40	55	80
M24	25.5	60	44	30	45	60	90

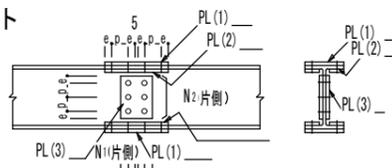
- [注] (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合、部力方向の縁端距離
 (2) せん断力・手動ガス切断線の場合の縁端距離
 (3) 圧延線・自動ガス切断線・のこ引き線・機械仕上線の場合の縁端距離

(2) ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	N-径
RG1		H-400×200×8×13			
RCG1		H-350×175×7×11			
RB1		H-350×175×7×11			
RB2		H-250×125×6×9			
RB3		H-300×150×6.5×9			

(3) 剛接合継手リスト

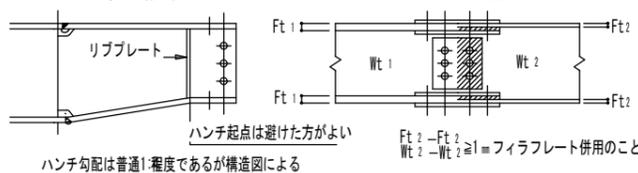


[注] 端部をBHとする場合の部材は設計図による

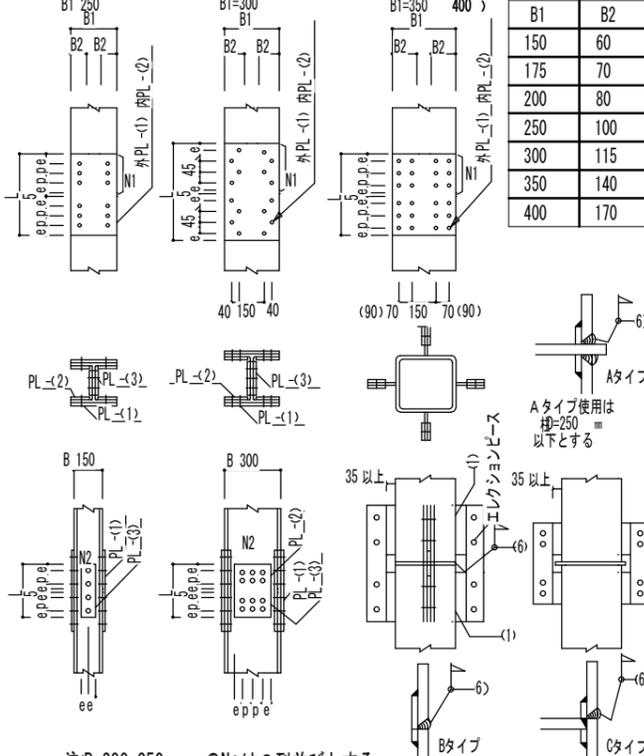
符号	部材	フランジ		ウェブ		
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径
別参照	端部					
	中央					

(4) ハンチ部の継手

フランジ及ウェブ厚の差のある場合



(5) 柱継手リスト



[注] B=200 250 のN2は2列並びとする
 現場溶接は原則として超音波探傷試験率00%を行う

符号	部材	フランジ		ウェブ		
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径
1C1	□-300×300×12					

[注] C1はSM490とする

(4) 鉄筋ブレース (JIS規格品とするISA5540 5542 1982 ...)

(a) 羽子板ボルト

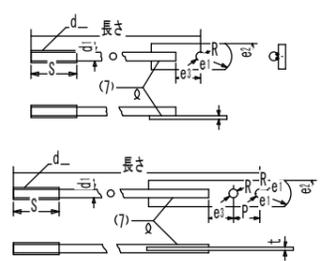
軸径d	ねじの呼び							
	M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24	M12
最大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99	
最小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77	
調整ねじの長さ S	100	115	125	140	150	165	175	
取付ボルト穴径 許容差+0.5mm はしあき(最小)	R 13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5	
へりあき(最小)	e1 35	40	45	50	50	55	50	
切板製	e2 22	28	28	34	34	38	38	
板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9	
平鋼製	e2 19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5	
へりあき(最小)	e2 19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5	
板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9	
ボルト端から取付ボルト 穴心のあき(最小)	e3 47	52	59	66	66	73	70	
溶接長さ(最小)	40	50	55	60	75	85	85	

[注] (1) e1, e2が確保されていば形状は自由でよい
 (2) 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする

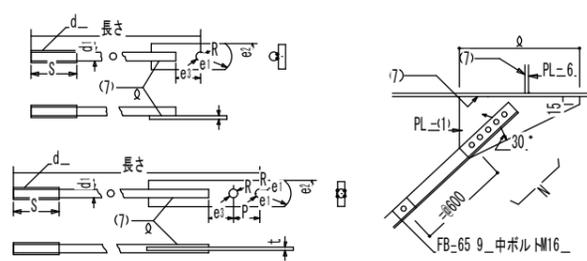
(b) 形鋼ブレース

符号	部材	PL-(1)	N-径	Q
V1	丸鋼 12mm			

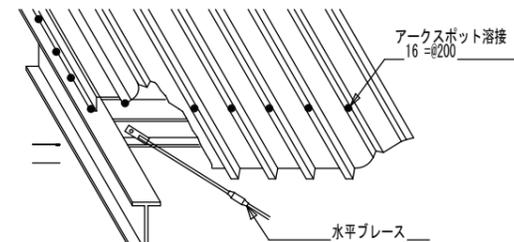
羽子板ボルト



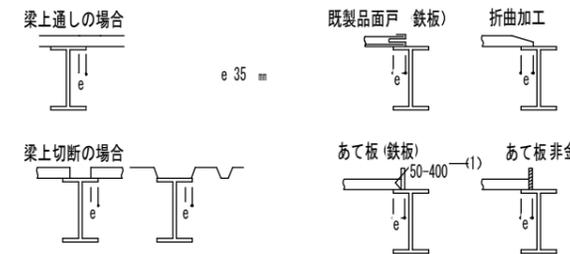
形鋼ブレース



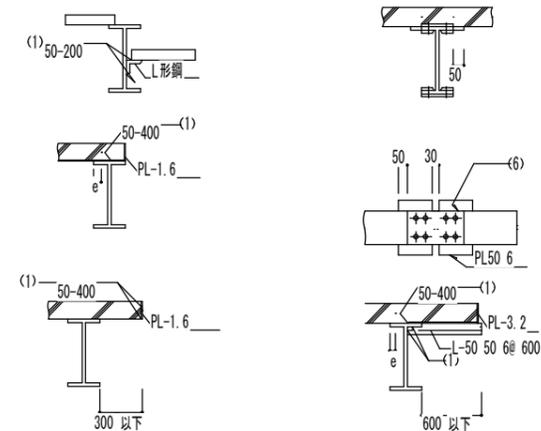
(7) デッキプレート床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照 梁との溶接およびコネクター



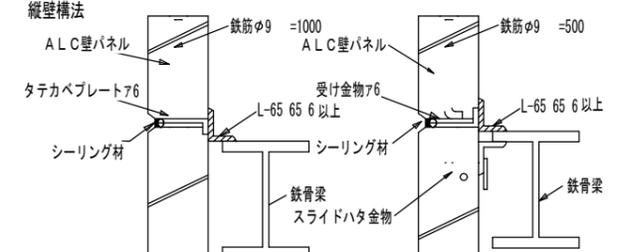
受梁へのかかり寸法および端部処理



スラブ端部の補足材

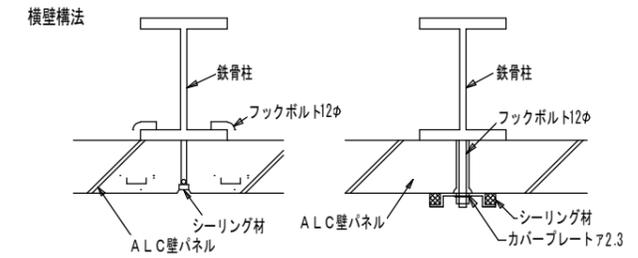


(8) L C板取付要領



挿入筋構法

スライド構法



ボルト止め構法

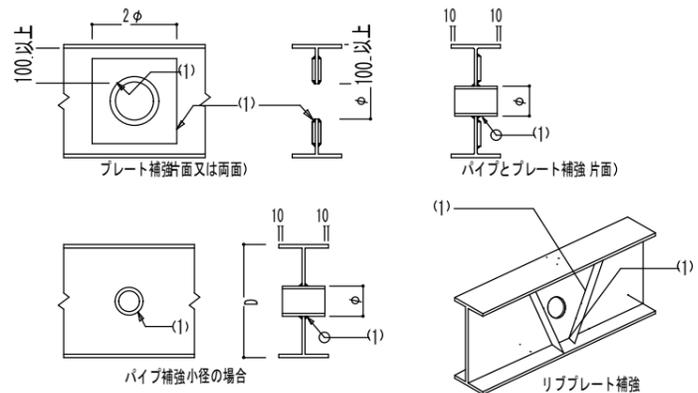
カバープレート構法

(9) 頭付きスタッド JIS 1198 スタッド材の標準形状・寸法

呼び名	スタッド材			
	軸径 d (mm)	頭径 D (mm)	頭高さ T (mm)	溶接後の長さ L (mm)
13mm	13.0	22.0	10.0	50, 80, 100, 130
16mm	16.0	29.0	10.0	80, 100, 130
	15.8	31.7	7.9	
19mm	19.0	32.0	10.0	80, 100, 130, 150
	19.0	31.7	9.5	
22mm	22.0	35.0	10.0	100, 130, 150
	22.2	34.9	9.5	

(10) 梁貫通補強

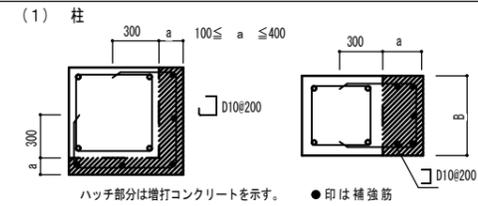
- 計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらずに良い。
- 梁端部 (スパンの/10以内かつ 2D以内) は避ける
- φ ≤ 0.4D
- 貫通孔補強については必ず監理者の承諾を得る事



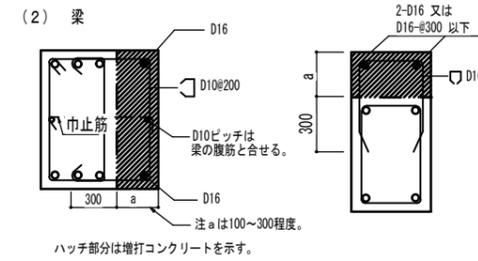
(11) その他

9. 柱、梁増打コンクリート補強

(使用するときには設計者、及び工事監理者と打合せのこと)

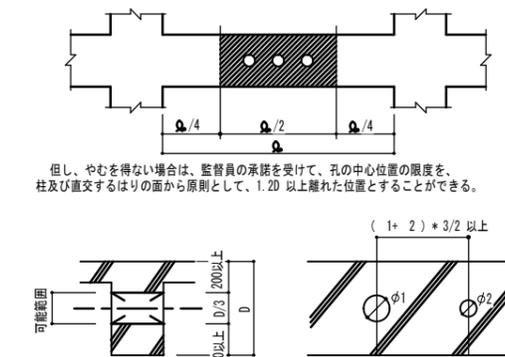


ハッチ部分の面積Acm ²	A<500	500 ≤ A < 1,000	1,000 ≤ A < 1,500
補強タイ筋	3-D16	4-D16	6-D16



10. 梁貫通孔補強

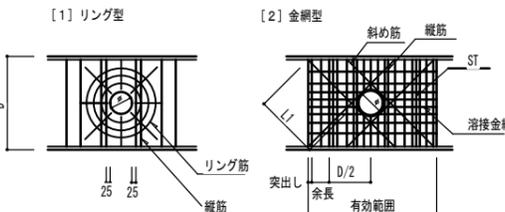
(1) 設置可能範囲



(2) 鉄筋標準配筋

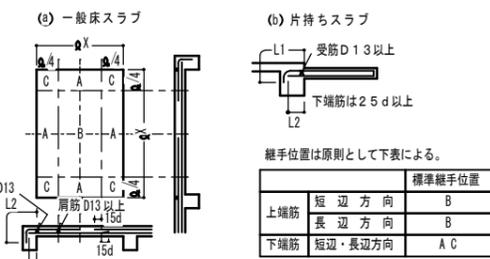
80 < φ ≤ 100	折筋 2-(2-D13) ST 2-D13	
100 < φ ≤ 150	斜筋 4-(2-D13) 縦筋 ST 4-D13 横筋 2-(2-D13)	
150 < φ ≤ 250	斜筋 4-(2-D13) 縦筋 ST 2-D13 横筋 2-(2-D13) 上下、縦筋 ST 3-D13	
250 < φ ≤ 350	斜筋 4-(2-D16) 縦筋 ST 4-D13 横筋 2-(2-D16) 上下、縦筋 ST 5-D13	

(3) 既製形 (使用するときには、設計者及び工事監理者と打合せのこと)

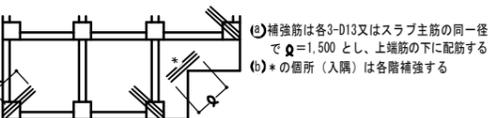


11. 床板

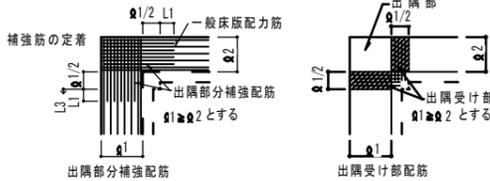
(1) 定着および継手



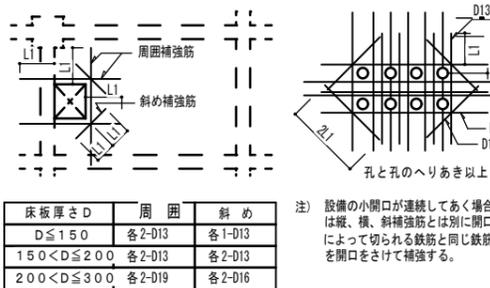
(2) 屋根スラブの補強



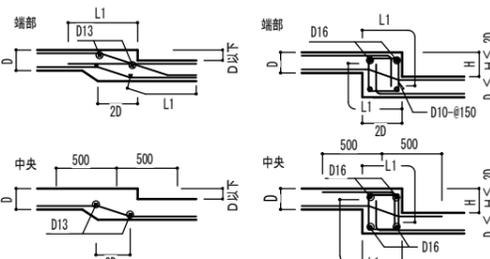
(3) 片持ちスラブ出隅部補強



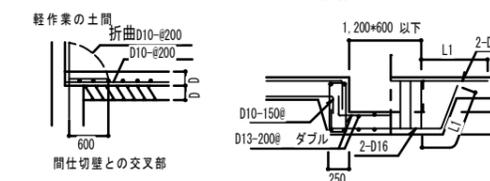
(4) 床板開口部の補強 (開口の径 500 以上の場合)



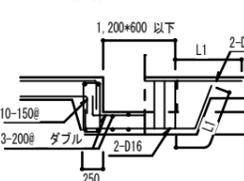
(5) 床板段差



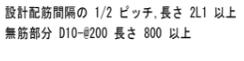
(6) 土間コンクリート



(7) 釜場

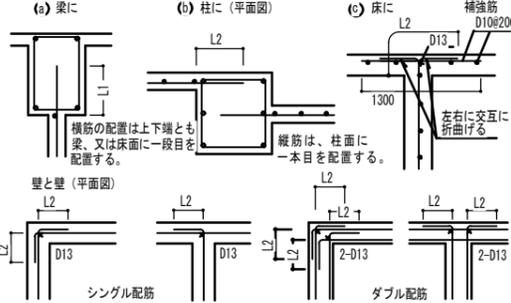


(8) 打継ぎ補強

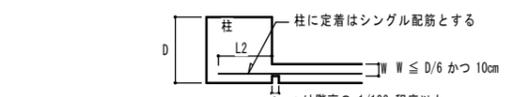


12. 壁

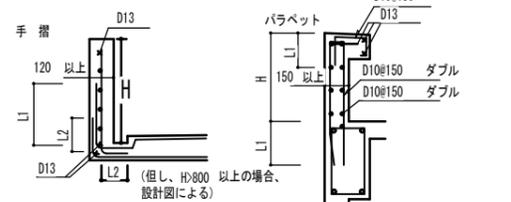
(1) 定着



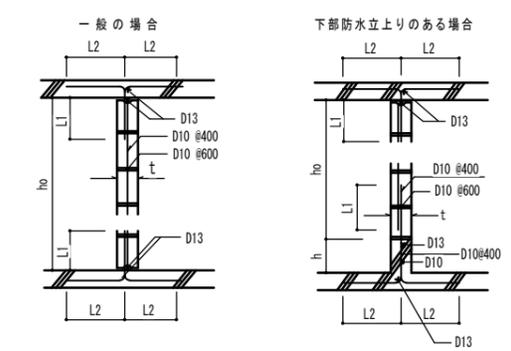
(2) スリット部 (設計図に記入のあるとき)



(3) 手摺、パラベット



(4) コンクリートブロック縦壁



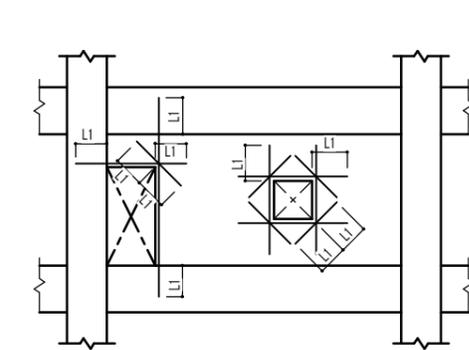
注) h0 ≤ 25t かつ 3,500 以下とする。但し直交方向 25t 以内に壁、又は柱がある場合は除く
注) h はコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し 200 ≤ h ≤ 400
注) 継手部は必ずモルタルをてん充すること

(5) 壁断面リスト

符号	W100	W120	W150, EW150	W180, EW180
断面				
縦筋	D10@250	D10@200	D10@300 チドリ	D10@200 ダブル
横筋	D10@250	D10@200	D10@300 チドリ	D10@200 ダブル
幅止め筋	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000
補強筋	縦筋 1-D13 横筋 1-D13 斜筋 1-D13	縦筋 1-D13 横筋 1-D13 斜筋 1-D13	縦筋 2-D13 (D16) 横筋 2-D13 (D16) 斜筋 2-D13 (D16)	縦筋 2-D13 (D16) 横筋 2-D13 (D16) 斜筋 2-D13 (D16)
符号	W200, EW200	W250	W180, 200	
断面				
縦筋	D10@200 ダブル	D13@200 ダブル	D13@200 ダブル	
横筋	D10@200 ダブル	D13@200 ダブル	D10@200 ダブル	
幅止め筋	D10@1000	D10@1000	D10@1000	
補強筋	縦筋 2-D16 横筋 2-D16 斜筋 2-D16	縦筋 2-D16 横筋 2-D16 斜筋 2-D16	縦筋 2-D16 横筋 2-D16 斜筋 2-D16	

※ () 内の補強筋はEWの場合とする。

(6) 壁開口部の補強



鉄筋による開口補強要領
[注] 出入口開口の補強鉄筋は上下のはりに定着する。

14. その他

(1) コンクリート

- コンクリートは JIS 認定工場の製品とし施工に関しては JASS5 による。
- セメントは JIS R5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。
- 計画調査は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
- 寒中、暑中コンクリートの適用を受ける場合には、調査、打ち込み、養生管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
- 強度試験供試体 (JASS 5T-603) は、現場水中養生とし、採取は打ち込み工程毎及び 150m² につき 1 回を標準とする。1 回に採取する供試体は、適当な間隔において、必要本数採取する。尚、特別指示なき場合は、1 回当り 6 本以上とし、4 適用に 3 本とする。
- ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、床スラブにおいては、コンクリートの自由落下高さは 1m 以下とする。打ち込み継続中における打ち継ぎ時間間隔の限度は、外気温が 25℃ 未満の場合は 2.5 時間、25℃ 以上の場合は 2 時間以内とする。

(2) 鉄筋

- 鉄筋は JIS G3112 の規格品を標準とする。
- 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは、「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」による。
- D22 未満は、すべて重ね継手とする。継手 (D19 以上) をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
- ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと (200 箇所を超えときは、200 箇所ごと) に 1 回行い、1 回の試験は 5 本とする。
- 柱の帯筋 (H00P) の加工方法は、● H 型 (タガ型) □ W 型 (溶接型) □ S 型 (スパイラル型) とする。

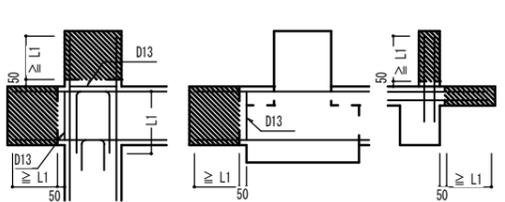
(3) 型枠

- 材料 合板厚 12mm を標準とする
- 型枠最小存置期間

種類 部位 セメント 平均 気温	せき板				支柱			
	基礎、はり側、柱、壁	スラブ下、はり下、	スラブ下	はり下	基礎、はり側、柱、壁	スラブ下	はり下	はり下
15℃ 以上	2	3	4	6	8	17	28	28
5℃ ~ 15℃	3	5	6	10	12	25	28	28
5℃ 未満	5	8	10	16	15	28	28	28
コンクリートの 圧縮強度	5 N/mm ²		設計基準強度の 50%		設計基準強度の 85%		100%	

13. 増築予定

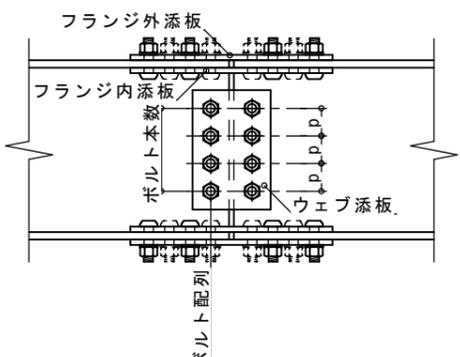
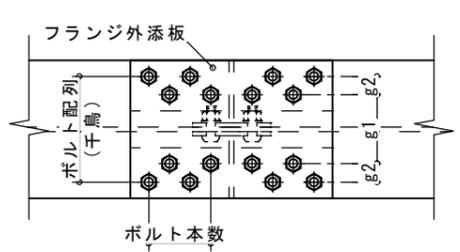
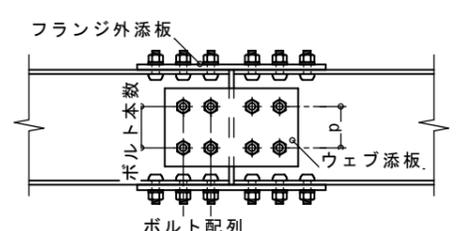
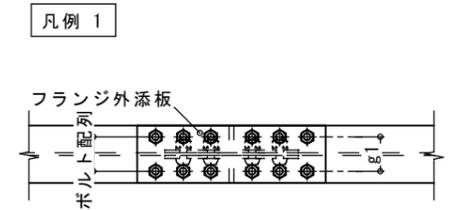
(1) 柱、梁 (2) 地中梁 (3) 床版、壁



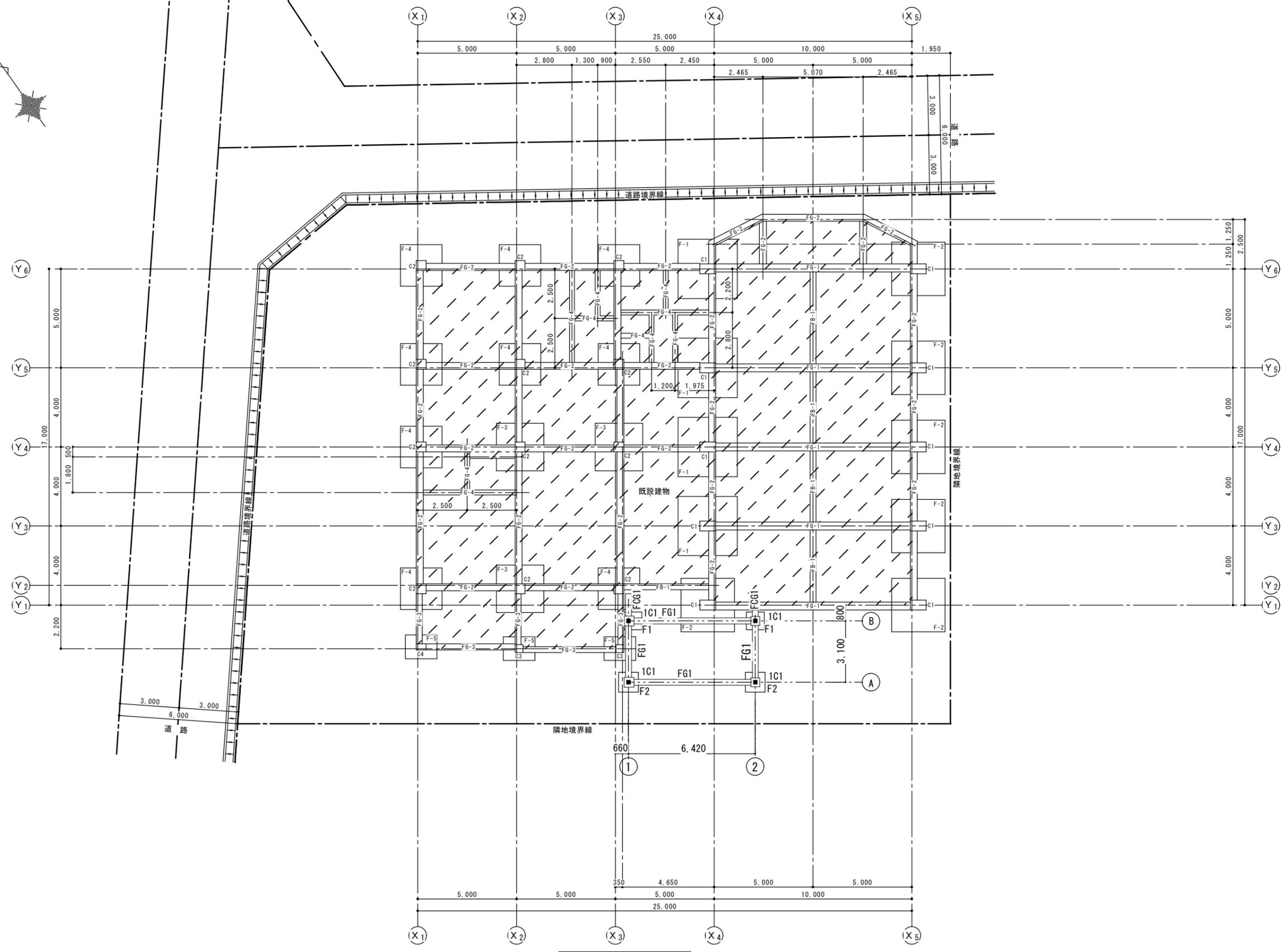
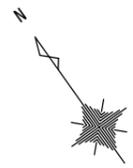
鉄骨構造梁継手標準リスト表

■ 梁鋼種 : SS400、SN400 ■ 用紙サイズ : A2 ■ 参考文献 : 鉄骨構造基準接合部委員会SCSS-H97
 ■ ボルト : HTB-F10T、HTB-S10T ■ 設計 : 保有耐力継手 ■ 配布 : <http://www.kozo-kogaku.co.jp> (Ver1.00)

採用標準図	梁サイズ	フランジ								ウェブ				
		ボルト径	本数	配列	ゲージ(g1)	ゲージ(g2)	外添板	内添板	ボルト径	本数	配列	ピッチ(p)	添板	
○	(1)	H-200×100×5.5×8	M16	2本	2列	56mm	—	PL-290×100×16	—	M16	2本	1列	60mm	PL-170×140×6
○	(1)	H-250×125×6×9	M16	3本	2列	75mm	—	PL-410×125×12	—	M16	2本	2列	90mm	PL-290×170×6
	(1)	H-300×150×6.5×9	M16	2本	2列	90mm	—	PL-290×150×9	PL-290×60×9	M16	3本	1列	60mm	PL-200×170×6
	(1)	H-350×175×7×11	M16	3本	2列	105mm	—	PL-410×175×9	PL-410×70×9	M16	4本	1列	60mm	PL-260×170×6
	(2)	H-148×100×6×9	M16	2本	2列	56mm	—	PL-290×100×16	—	M16	1本	2列	60mm	PL-290×80×6
	(2)	H-194×150×6×9	M16	2本	2列	90mm	—	PL-290×150×9	PL-290×60×9	M16	2本	1列	* 60mm	PL-230×140×6
	(2)	H-244×175×7×11	M16	3本	2列	105mm	—	PL-410×175×9	PL-410×70×9	M16	2本	2列	90mm	PL-290×170×6
	(2)	H-100×100×6×8	M16	2本	2列	56mm	—	PL-290×100×16	—	M16	1本	2列	* 60mm	PL-350×50×9
	(3)	H-300×150×6.5×9	M20	2本	2列	90mm	—	PL-290×150×9	PL-290×60×9	M20	2本	1列	120mm	PL-200×170×6
	(3)	H-350×175×7×11	M20	2本	2列	105mm	—	PL-290×175×9	PL-290×70×9	M20	3本	1列	90mm	PL-260×170×6
	(3)	H-400×200×8×13	M20	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×9	PL-410×80×9	M20	4本	1列	60mm	PL-260×170×9
	(4)	H-450×200×9×14	M20	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×12	PL-410×80×12	M20	5本	1列	60mm	PL-320×170×9
	(4)	H-500×200×10×16	M20	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×12	PL-410×80×12	M20	5本	1列	60mm	PL-320×170×9
	(5)	H-600×200×11×17	M20	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×12	PL-410×80×12	M20	4本	2列	120mm	PL-440×290×9
	(6)	H-194×150×6×9	M20	2本	2列	90mm	—	PL-290×150×9	PL-290×60×9	M20	2本	1列	* 60mm	PL-230×140×6
	(6)	H-244×175×7×11	M20	2本	2列	105mm	—	PL-290×175×9	PL-290×70×9	M20	2本	1列	60mm	PL-170×140×9
	(6)	H-294×200×8×12	M20	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×9	PL-410×80×9	M20	3本	1列	60mm	PL-200×170×9
	(6)	H-340×250×9×14	M20	4本	2列	150mm	—	PL-530×250×12	PL-530×100×12	M20	3本	2列	60mm	PL-290×200×9
	(7)	H-390×300×10×16	M20	4本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-440×300×12	PL-440×110×12	M20	4本	1列	60mm	PL-260×170×9
	(7)	H-440×300×11×18	M20	4本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-440×300×12	PL-440×110×12	M20	5本	1列	60mm	PL-320×170×9
	(8)	H-488×300×11×18	M20	4本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-440×300×12	PL-440×110×12	M20	4本	2列	90mm	PL-350×290×12
	(8)	H-588×300×12×20	M20	5本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-530×300×12	PL-530×110×16	M20	4本	2列	120mm	PL-440×290×9
	(9)	H-700×300×13×24	M20	6本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-620×300×19	PL-620×110×19	M20	9本	1列	60mm	PL-560×170×9
	(9)	H-800×300×14×26	M20	6本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-620×300×19	PL-620×110×19	M20	7本	2列	90mm	PL-620×290×12
	(10)	H-890×299×15×23	M20	6本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-620×300×16	PL-620×110×19	M20	8本	2列	90mm	PL-710×290×12
	(10)	H-900×300×16×28	M20	7本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-710×300×19	PL-710×110×22	M20	8本	2列	90mm	PL-710×290×12
	(11)	H-912×302×18×34	M20	8本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-800×300×25	PL-800×110×25	M20	11本	2列	60mm	PL-680×290×16
	(11)	H-918×303×19×37	M20	9本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-890×300×25	PL-890×110×28	M20	11本	2列	60mm	PL-680×290×16
	(12)	H-400×200×8×13	M22	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×9	PL-410×80×9	M22	3本	1列	90mm	PL-260×170×9
	(12)	H-450×200×9×14	M22	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×12	PL-410×80×12	M22	4本	1列	60mm	PL-260×170×12
	(13)	H-500×200×10×16	M22	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×12	PL-410×80×12	M22	4本	1列	90mm	PL-350×170×9
	(13)	H-600×200×11×17	M22	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×12	PL-410×80×12	M22	7本	1列	60mm	PL-440×170×9
	(14)	H-294×200×8×12	M22	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×9	PL-410×80×9	M22	2本	1列	120mm	PL-200×170×6
	(14)	H-340×250×9×14	M22	3本	2列	150mm	—	PL-410×250×12	PL-410×100×12	M22	3本	1列	60mm	PL-200×170×9
	(14)	H-390×300×10×16	M22	3本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-350×300×12	PL-350×110×12	M22	3本	1列	90mm	PL-260×170×9
	(15)	H-440×300×11×18	M22	4本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-440×300×12	PL-440×110×12	M22	5本	1列	60mm	PL-320×170×9
	(15)	H-488×300×11×18	M22	4本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-440×300×12	PL-440×110×12	M22	5本	1列	60mm	PL-320×170×12
	(16)	H-588×300×12×20	M22	4本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-440×300×12	PL-440×110×16	M22	7本	1列	60mm	PL-440×170×9
	(16)	H-700×300×13×24	M22	5本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-530×300×19	PL-530×110×19	M22	9本	1列	60mm	PL-560×170×9
	(17)	H-800×300×14×26	M22	5本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-530×300×19	PL-530×110×19	M22	10本	1列	60mm	PL-620×170×12
	(17)	H-890×299×15×23	M22	5本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-530×300×16	PL-530×110×19	M22	12本	1列	60mm	PL-740×170×12
	(18)	H-900×300×16×28	M22	6本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-620×300×19	PL-620×110×22	M22	12本	1列	60mm	PL-740×170×12
	(18)	H-912×302×18×34	M22	7本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-710×300×25	PL-710×110×25	M22	10本	2列	60mm	PL-620×290×16
	(19)	H-918×303×19×37	M22	7本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-710×300×25	PL-710×110×28	M22	10本	2列	60mm	PL-620×290×16

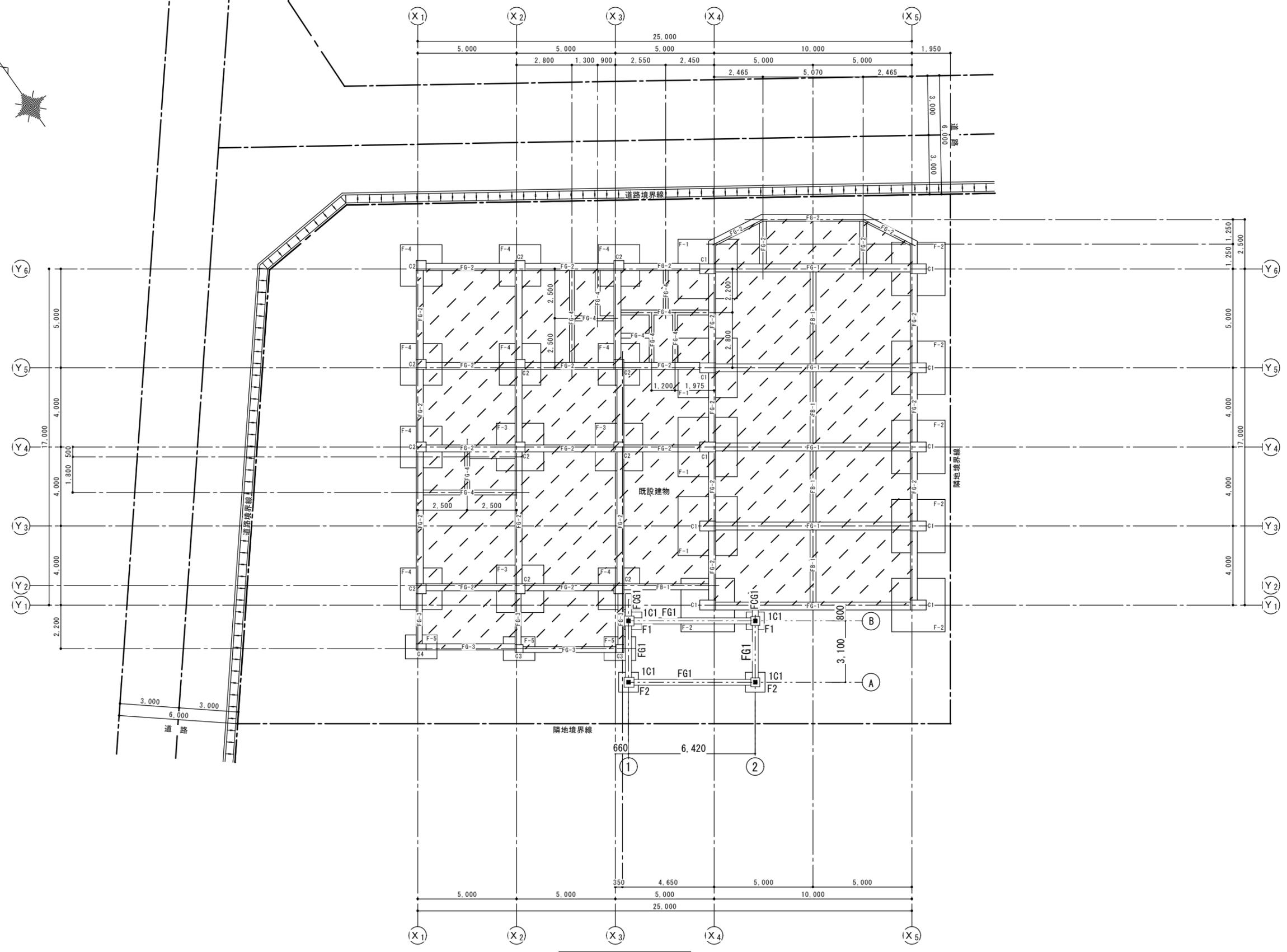
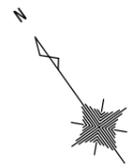


※ *寸法はボルト配列を外側に半ピッチずらすことを表す。



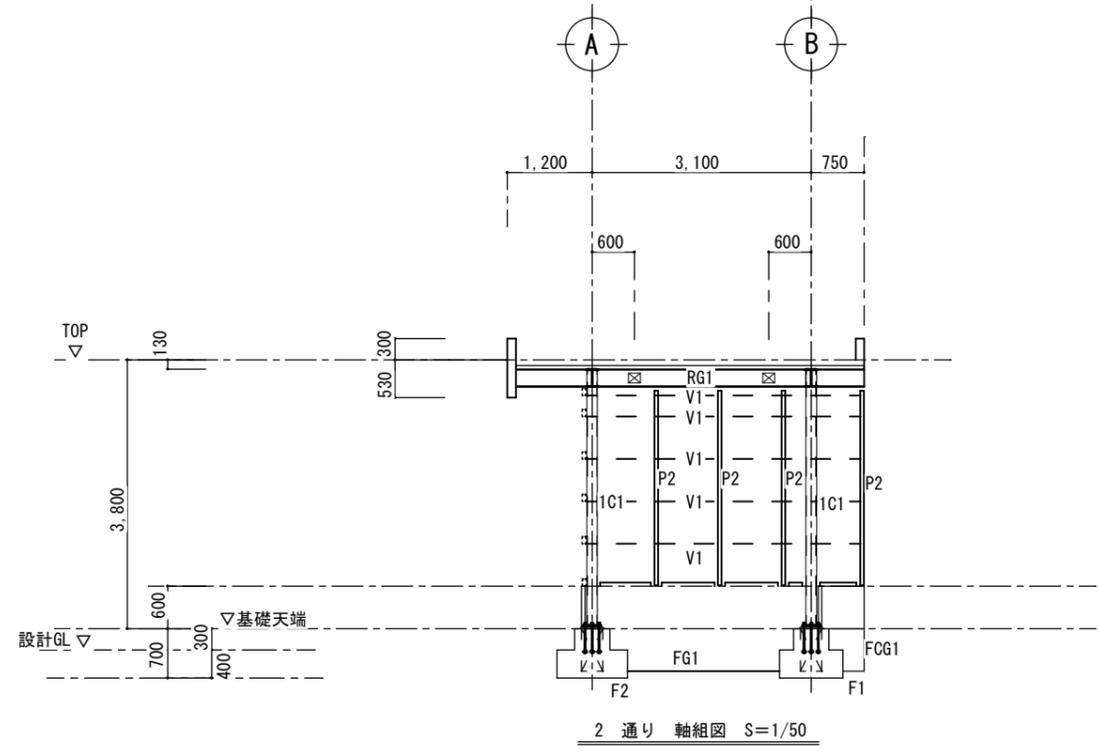
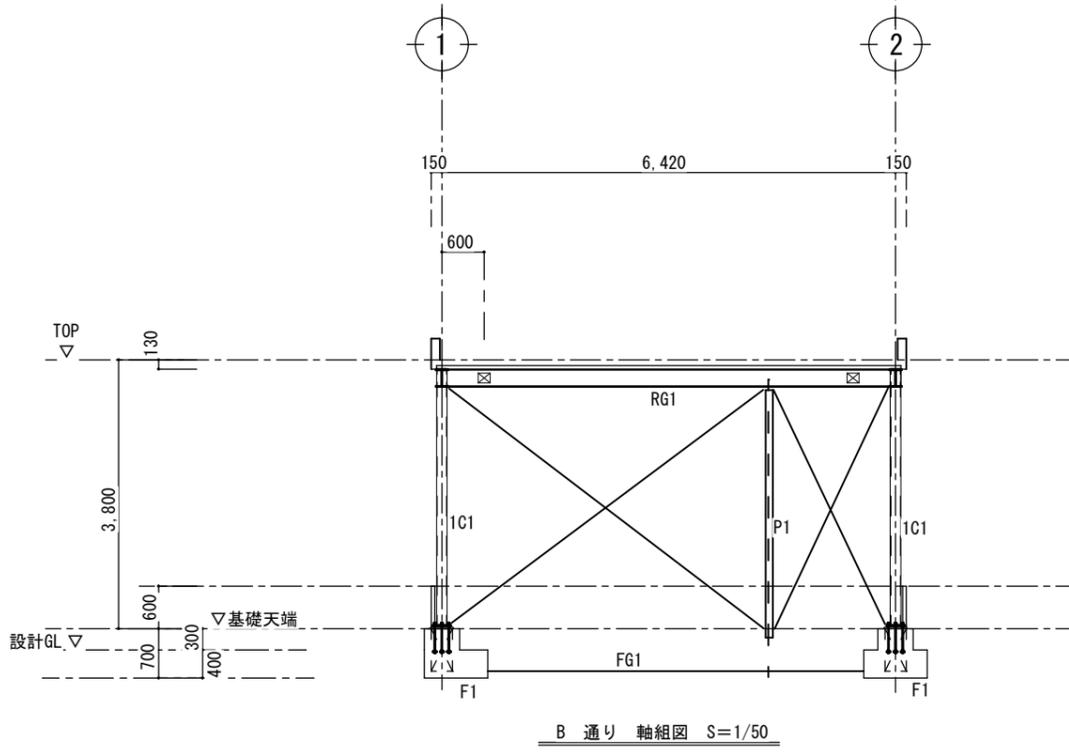
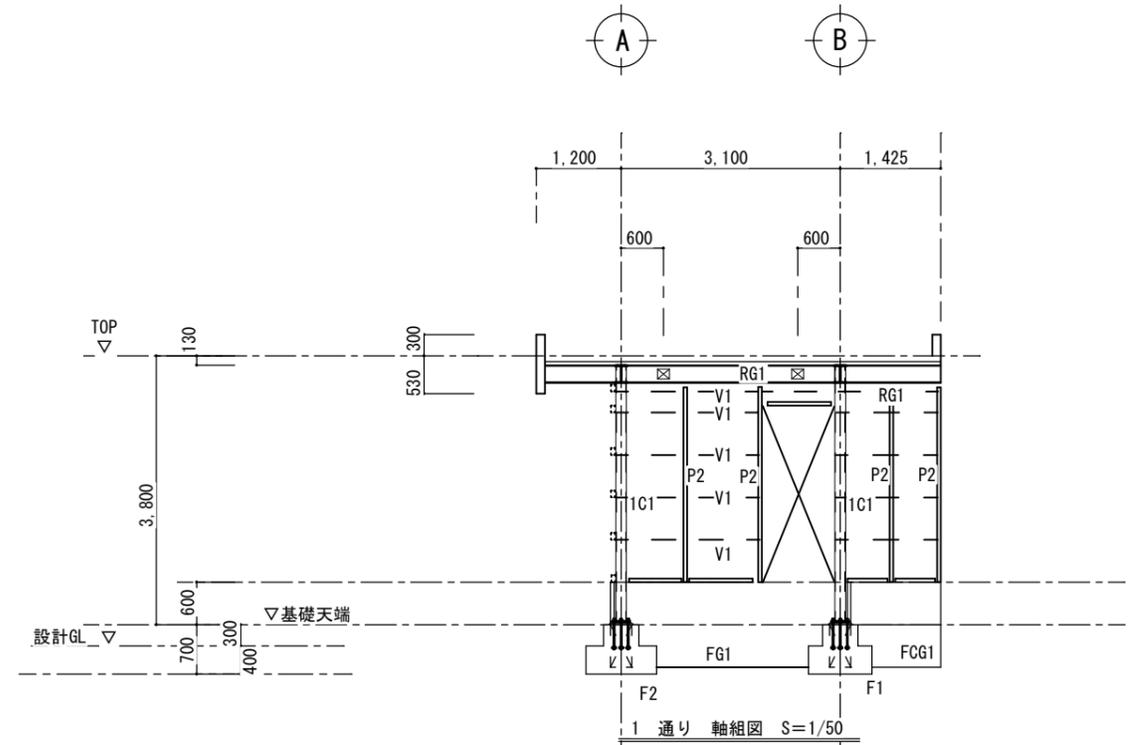
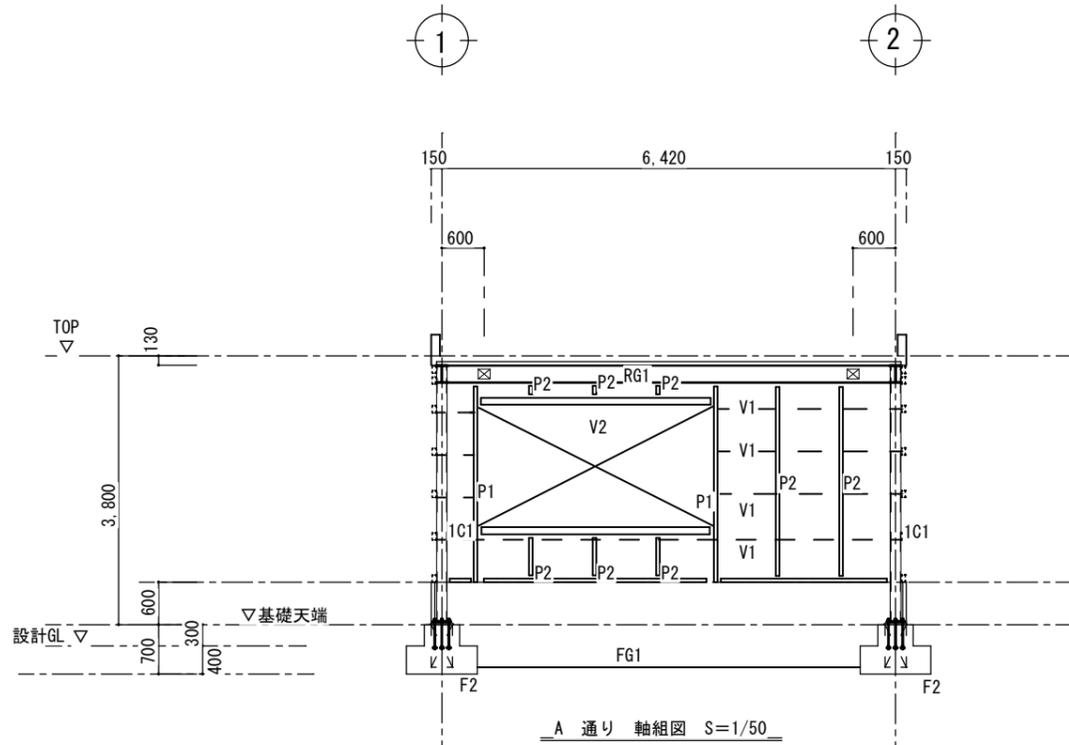
基礎伏図 S=1/100

備考	碧くAoi)建築設計事務所 1級建築士事務所 沖縄県知事登録第113-257号 管理建築士 新城 隆 大臣登録第 114943 号 住 所:うるま市石川伊波922-5 TEL.(098)965-4406	工事名称	みどり町児童センター増改修工事	監理者	設計者	担当者	図面名称	基礎伏図	図面NO S-7
		工事場所	うるま市みどり町六丁目9番2	日付	日付	日付	縮尺		

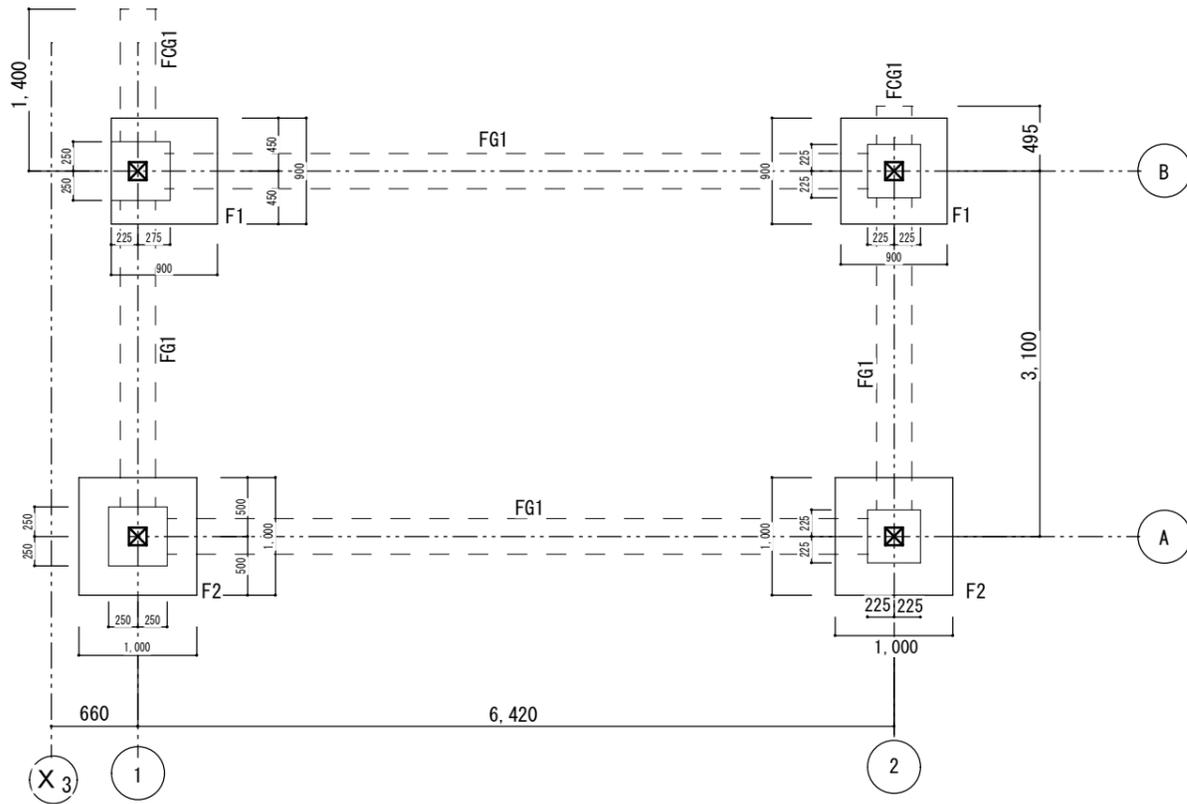


基礎伏図 S=1/100

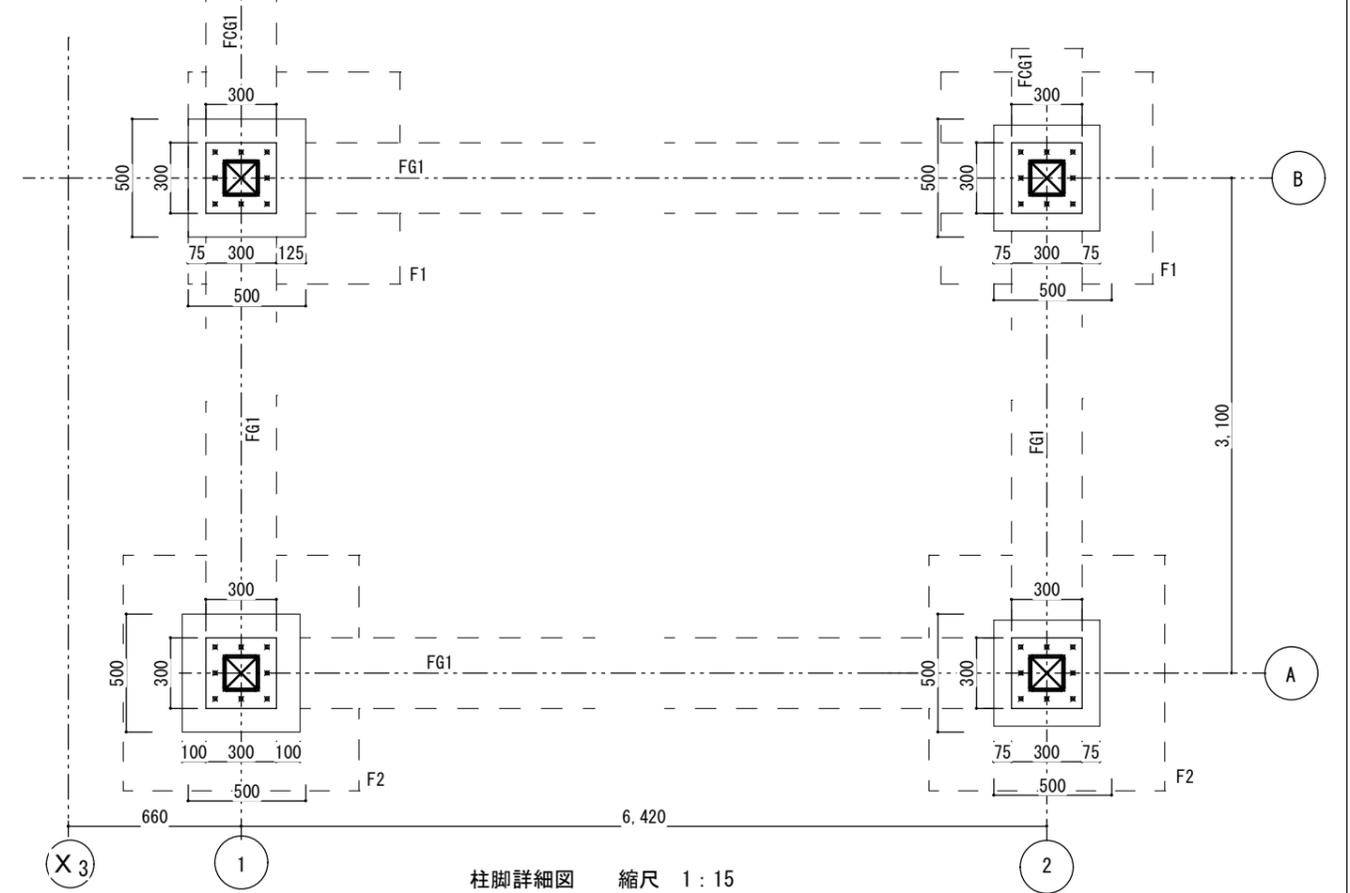
備考	碧くAoi)建築設計事務所 1級建築士事務所 沖縄県知事登録第113-257号 管理建築士 新城 隆 大臣登録第 114943 号 住 所:うるま市石川伊波922-5 TEL.(098)965-4406	工事名称	みどり町児童センター増改修工事	監理者	設計者	担当者	図面名称	基礎伏図	図面NO
		工事場所	うるま市みどり町六丁目9番2	日付	日付	日付	縮尺		



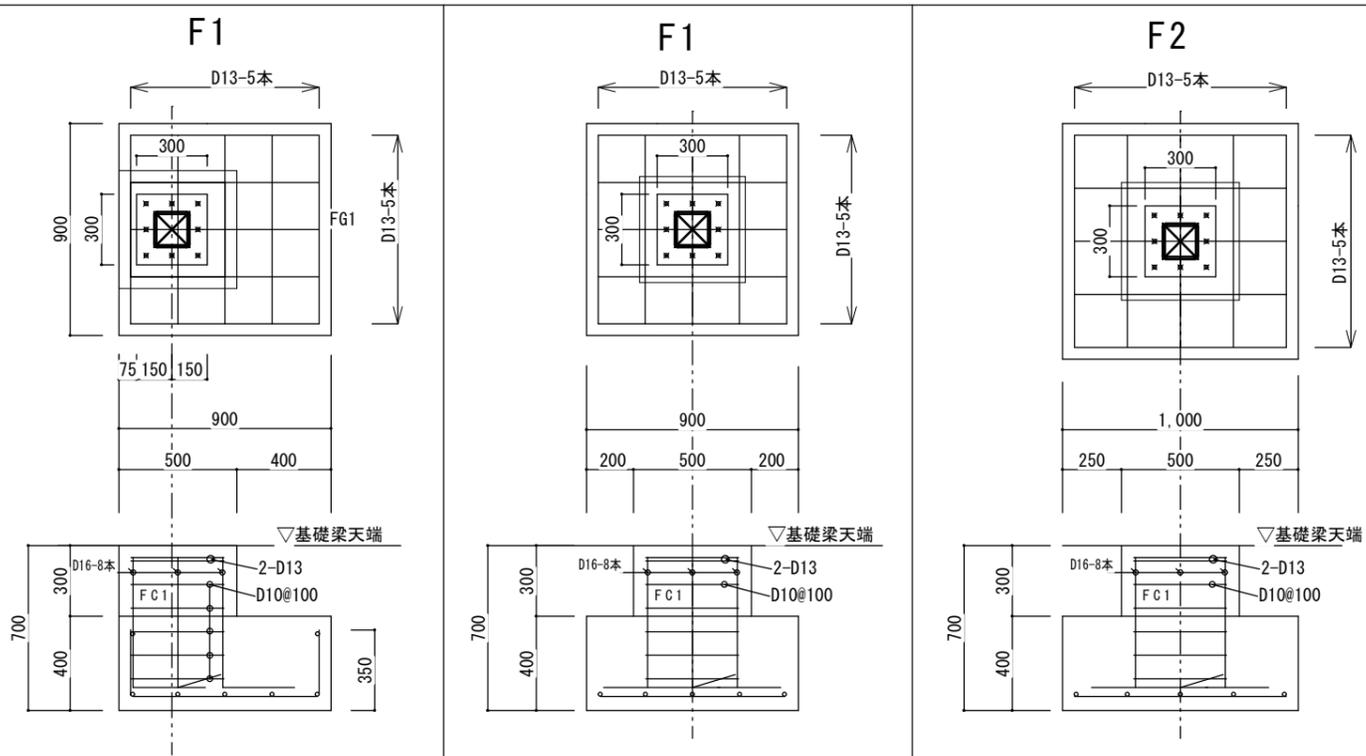
備考	碧くAoi) 建築設計事務所 1級建築士事務所 沖縄県知事登録第113-257号 管理建築士 新城 隆 1級建築士登録 大臣登録第 114943号 住所: うるま市石川伊波922-5 TEL (098) 965-4406	工事名称	みどり町児童センター増改修工事	監理者	設計者	担当者	図面名称	軸組図	図面NO
		工事場所	うるま市みどり町六丁目9番2	日付	日付	日付	縮尺		



基礎伏図 縮尺 1 : 50



柱脚詳細図 縮尺 1 : 15



基礎配筋詳細図 縮尺 1 : 15

符号	FC1
階	1F-1F
位置	全断面
方向	X方向 Y方向
断面	
D (cm)	50 x 50
寄筋	-
主筋	1 段筋 3-D19 3-D19
	2 段筋 - -
帯筋(mm)	2-D10@100 2-D10@100
芯鉄筋	- -
鉄骨断面(mm)	-

梁リスト S : 1/30
中止メ筋 D10@1,000

符号	FCG1	
	全断面	全断面
位置		
断面		
断面寸法	300 x 600	300 x 600
ハンチ長(cm)	-	-
上端筋	1 段筋 3-D19	3-D19
	2 段筋 -	-
下端筋	1 段筋 3-D19	3-D19
あばら筋	2-D10@100	2-D10@200
鉄骨断面(mm)	-	-

壁リスト S=1/30	
符号	W 1 5
全断面	
断面	
縦筋	D10@200 (S)
横筋	D10@200 (S)
開口	縦 -
補強筋	横 -
	斜め -
幅止め筋	-

柱リスト								
階	符号	鋼材断面	規格	継手	ダイヤラム	厚	細長比	備考
1F	1C1	□-300×300×9			上外	PL16		ダイヤラム SN490c
					下外	PL16		

大梁リスト					
階	符号	鋼材断面	規格	継手	備考
RF	RG1	左端	H-250x125x6x9	SN400	HTB10
		中央	H-250x125x6x9	SS400	
		右端	H-250x125x6x9	SN400	

小梁リスト					
階	符号	鋼材断面	規格	継手	備考
RF	RB1	H-250x125x6x9			SS400
RF	RB2	H-200x100x5.5x8			SS400
RF	RCG1	H-250x125x6x9			SS400

間柱、胴縁 リスト					
階	符号	鋼材断面	規格	継手	備考
	P1	□ -150×50×2.3	SS400		中ボルト
	P2	□ -150×50×2.3 @900	SS400		中ボルト
	V1	□ -100×50×20×1.6 @600	SS400		縦置き
	V2	□ -150×50×2.3	SS400		横置き
	デッキプレート	ルーフデッキ QL50	1.2mm		
	スタットボルト	φ12 h=80			

R G1	E	H-250×125×6×9	SN400
	C	H-250×125×6×9	SS400
フランジ	外側	PL-410x125x12	
	内側		
ウェブ	SPL	2PL-170x290x6	
	HTB	24-M16	HTB10
ウェブ	HTB	8-M16	HTB10

RB2	E	H-200×100×5.5×8	SS400
	C	H-200×100×5.5×8	SS400
フランジ	外側	PL-290x100x16	
	内側		
ウェブ	SPL	2PL-170x140x6	
	HTB	16-M16	HTB10
ウェブ	HTB	4-M16	HTB10

柱脚リスト		
柱符号	1C1	
主材	1C1 □-300x300x9	STKR400
ボルト	300x300x20	SN490
リブ	PL	
ボルト	径 M16 転造ネジ	SNR490
備考	無収縮モルタル	

使用構造材料

適用は 印を記入する。

(1) 地業工事

使用箇所	材料	備考
土間コンクリート下	⑦150 砂利地業 □ 割栗地業	
基礎下	⑦50 □ 砂利地業 割栗地業	
地中梁下	⑦50 砂利地業 □ 割栗地業	

(2) コンクリート

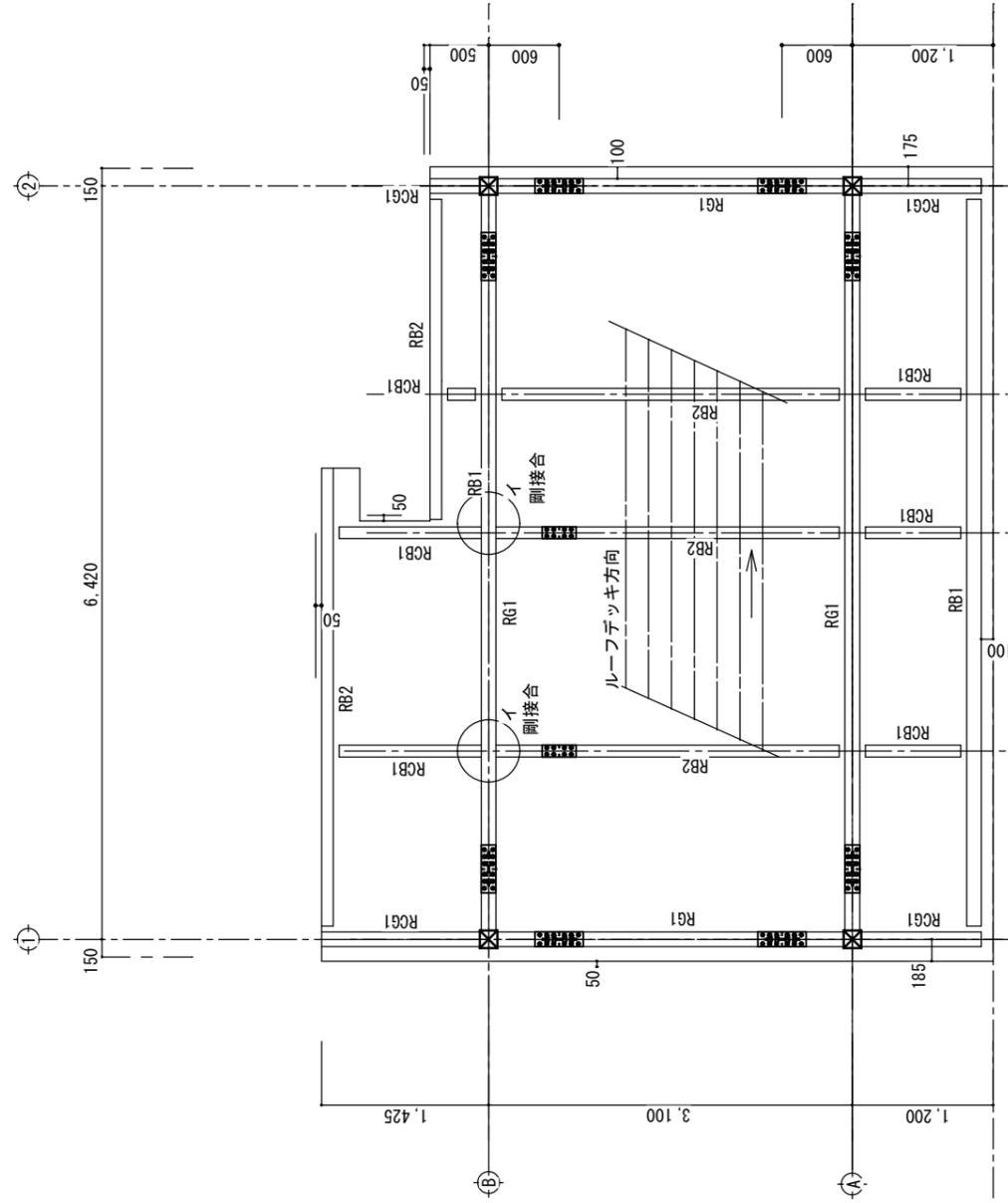
適用箇所	種類	設計基準強度 (kg/cm ²)	スランプ (cm ³)	備考
捨コンクリート	普通	Fc=135, 150	12, 15, 18	
土間コンクリート	普通	Fc=180, 210	12, 15, 18	
基礎、基礎梁	普通	Fc=180, 210, 240, 270	12, 15, 18	
柱、床、壁	普通	Fc=180, 210, 240, 270	12, 15, 18	

(3) 鉄筋

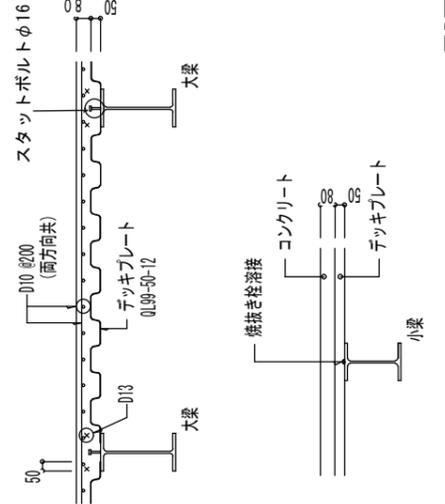
材料	径	使用箇所
異径鉄筋	SD295 A D10~D16	全て
	SD345 D19~D25	
継手方法	D10~D25 重ね継手, D32以上 (重ね継手 ガス圧接)	

RB1	E	H-250x125x6x9	SS400
	C		
ガセット	GPL	PL-6	SS400
	HTB	4-M16	HTB10

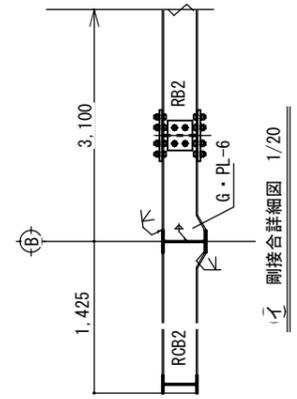
RB2	E	H-200x100x5.5x8	SS400
	C		
ガセット	GPL	PL-6	SS400
	HTB	2-M16	HTB10



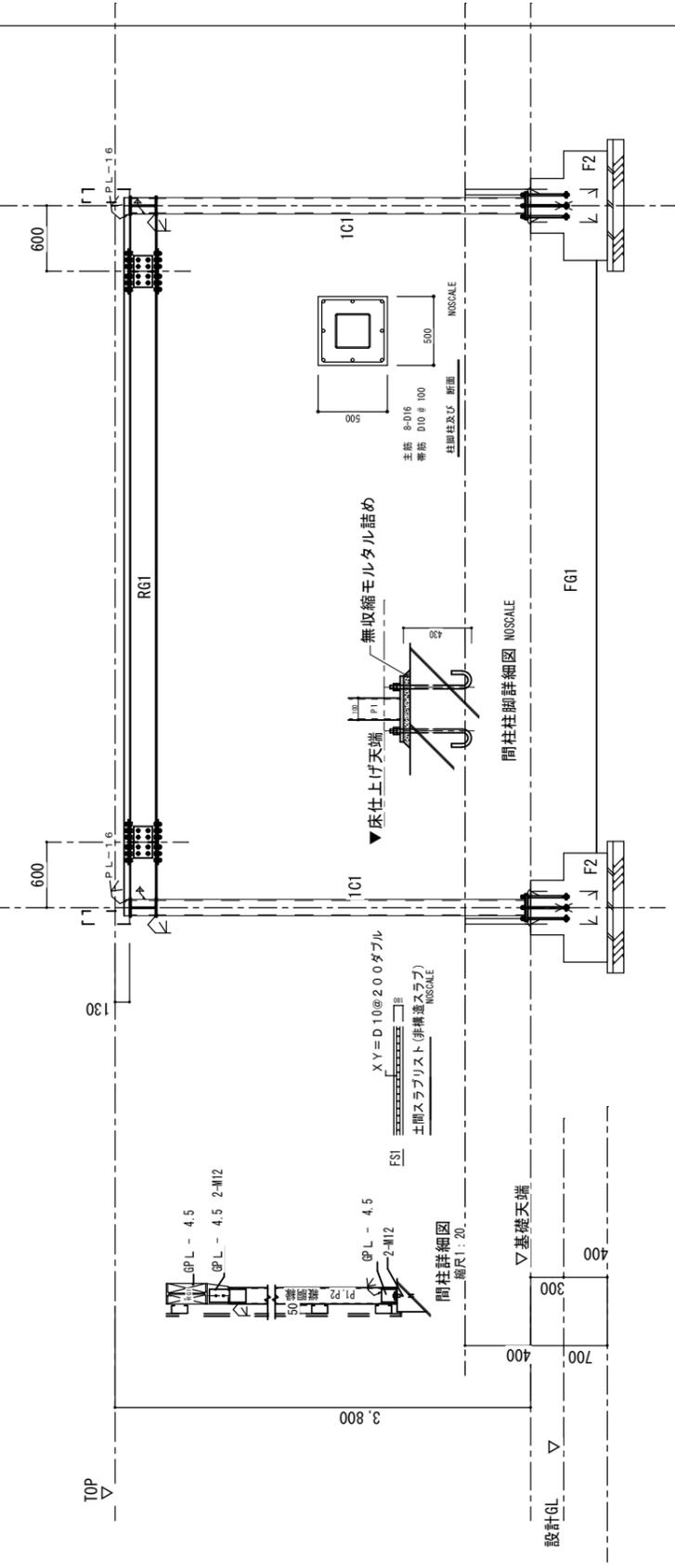
合成スラブリスト NOSCALE
 チッキプレートは2連続とする
 1時間耐火認定品を使用する
S1



*スタットボルトは φ12 (800) (I=80) とする



剛接合詳細図 1/20



A 通り 軸組図 S=1/30

備考	碧く Aoi 建築設計事務所	工事名称	みどり町児童センター増改修工事	監理者	設計者	担当者	図面名称	A 通り架構詳細図	図面NO S-12
	管理建築士 新城 隆 住 所：うるま市石川伊波922-5	1級建築士事務所 沖縄県知事登録第113-257号 1級建築士登録 大臣登録第 114943 号 TEL (098)965-4406	工事場所	うるま市みどり町六丁目9番2	日付	日付	日付	縮尺 1/20 1/30(A-1) NOSCALE	